

令和2年度 東予地方局予算一覧（実績）

（事項名）	（事業費）	（事業期間）
1 歴史文化継承ひと・まちづくり事業費	1,250千円	R1～3年度
2 東予食の魅力発信事業費	997千円	H30～R2年度
3 しまなみ地域サイクリストマナー向上事業費	1,349千円	R2～4年度
4 しまなみ地域観光客等受入体制強化事業費	1,500千円	R2～4年度
5 えひめさんさん物語フォローアップ事業費	1,500千円	R2～4年度
6 東予東部ものづくり若年人材確保事業費	1,800千円	R1～3年度
7 やまじ王産地強化事業費	1,100千円	H30～R2年度
8 しまなみ産夏季レモン栽培体系確立事業費	750千円	R2～4年度
9 醸造用ぶどう生産力強化事業費	970千円	R2～4年度
10 新花材ピットスポラム等生産力強化事業費	1,454千円	R1～3年度
11 しまなみ産オリーブ特産化促進事業費	1,500千円	R1～3年度
12 木材流通改革による担い手確保促進事業費	541千円	H30～R2年度
	（事業費合計）	<u>14,711千円</u>

1. 歴史文化継承ひと・まちづくり事業費 1,250千円（R1～3年度）

県と管内市町で構成する「東予歴史文化資源活用市町連携協議会」では、「人づくり」、「シビックプライドの醸成」及び「交流人口の拡大」に繋げるため、東予の歴史文化資源を活用した様々な事業に取り組んだ。

1 東予の地域活性化人材育成事業 ～人づくり～

(1) 東予みらい人材育成事業

地域づくりに参加する意欲の高い若者に、東予の歴史文化資源について学ぶ機会を創出し、新たな地域活性化のコンテンツやそれを活用した取組みの提案など、地域活動への参加を促進。

※12/5東予の高校生が愛媛大学生との交流を通し、課題解決の手法等を学び、地域活性化策を提案

(2) 第3回高校生による歴史文化PRグランプリ

管内の高校生がチーム対抗で、歴史文化資源の魅力やその活用アイデアなどのプレゼンテーションを実施し、日頃の研究活動を紹介及び審査により表彰。 ※2/11オンライン開催【YouTube配信】

【10校11チームがリモート参加】

2 TOYOプライド醸成事業 ～シビックプライドの醸成～

(1) 東予の歴史文化を巡る大学生遊学バスツアー

県内の大学生を対象に東予の歴史文化資源を巡るツアーを実施し、地元高校生のガイドにより東予地域の魅力を紹介及び交流促進を図った。 ※11/14県内大学生が参加「高校生ガイドと相互交流」

3 東予ファン拡大事業 ～交流人口の拡大～

(1) 個人旅行者向け小冊子の作成

東予地域の歴史文化資源を、個人の興味に合わせて巡れるよう、テーマ別に美しい写真とともに紹介する小冊子「えひめ東予散策」を作成・配布。

(2) SNSを活用した情報発信の強化

4 事業費合計 2,500千円（県1,250千円、4市各300千円、上島町50千円）

2. 東予食の魅力発信事業費 997千円（H30～R2年度）

東予の食品企業・飲食店・住民等が一体となり、食の魅力を発信するため、蔵元推薦の飲食店で地酒と地元食材の料理を提供する「えひめ東予 SAKE & FOOD FAIR ～七蔵ものがたり～」を展開し、食分野のすそ野拡大や底上げを図り、地域活性化の仕掛けづくりに取り組んだ。

1 えひめ東予 SAKE & FOOD FAIR ～七蔵ものがたり～ 事業

魅力的な産品である東予の地酒を切り口とし、東予の酒造会社がお薦めする飲食店を選定の上、地元住民や観光客が、地元食材を使った東予の料理と地酒をセットで楽しめる「食」事業として、「えひめ東予 SAKE & FOOD FAIR ～七蔵ものがたり～」等を展開。

(1) 内容

酒造会社及び飲食店と連携し、お薦めの酒と地元食材活用の料理をセットで提供するとともに、フェア店舗の統一企画（飲み比べセット・フェア料理など）を含む魅力的なフェアを各店舗で開催。

※10～11月の2か月間：東予の7酒造会社・4酒販店・20飲食店と連携（蔵元ナイトが大変好評）

(2) メインターゲット

新たなファンとなりうる若者世代・女性、食に興味のある情報感度の高い方。

(3) えひめ東予 SAKE & FOOD FAIR ～七蔵ものがたり～の告知

SNS・ホームページ・雑誌・フリーペーパーの告知、チラシ配布、参加飲食店・酒造会社・酒販店による客へのフェア案内、SNS投稿によるプレゼントキャンペーンの実施などにより継続的に広く周知を図った。

※SNSフォロワー数約1,000人（昨年度比56%増）

(4) 東予の地酒を切り口とした食の魅力発信

東予の酒と地元食材の料理をセットにした食の魅力を幅広い消費者に訴求するため、SNS・雑誌・フリーペーパーなどを活用した継続的な情報発信に取り組んだ。



3. しまなみ地域サイクリストマナー向上事業費 1,349千円 (R2~4年度)

しまなみ地域を訪れるサイクリストの交通ルールの順守やマナー向上への意識を高めるため、地域や関係機関が連携して、マナー啓発等に取り組んだ。

1 しまなみ地域サイクリストマナー向上推進事業

- (1) しまなみ地域サイクリストマナー向上推進協議会の開催 (8月、10月、3月)
 - ・サイクリングマナーアップキャッチフレーズの決定
「あいさつ響く愛顔のShimanami」
 - ・マナー啓発方法等の検討
- (2) ワークショップの開催 (2回)
サイクリングに関する課題抽出、マナーアップキャッチフレーズの検討



2 しまなみ地域サイクリストマナー啓発事業

- (1) 啓発用物品 (キャッチフレーズ入りマスクケース等) の制作、配布
 - ・伯方署サイクリストマナーアップ作戦 (8月)
 - ・愛媛サイクリングの日 (11月・サンライズ糸山)
 - ・サイクリングターミナルを訪れるレンタサイクル利用者へ配布
- (2) SNSでの発信

3 サイクリストマナー啓発デザイン路面シート設置事業

自転車走行中ではなく、停止状態で目視する方が高い啓発効果が期待できるため、「路面シート」から「看板」の設置へ変更
○設置箇所：計4箇所 (糸山1、大島2、伯方島1)



4. しまなみ地域観光客等受入体制強化事業費 1,500千円 (R2~4年度)

「しまなみ海道サイクリングロード」が「ナショナルサイクルルート」に指定されたことを契機として、増加が期待される外国人観光客等の受入体制の更なる充実・強化を図るため、地元市町等との連携事業を展開し、インバウンドを含む誘客や滞在型観光を促進し、地域経済の活性化を図った。

1 インバウンド受入対応力向上支援事業

- (1) ウィズコロナ時代のおもてなしスキルアップセミナーの開催
 - ・受入対応講座 (2回、10月)
 - ・課題解決ワークショップ (2回、12月)
- (2) サイクリスト向け宿泊施設の実態調査・情報発信
 - ・サイクリストの受入状況等に関するアンケート調査の実施 (宿泊128施設対象)
 - ・上記調査結果をホームページ等での情報発信に活用
- (3) インバウンド等誘客情報発信事業
 - ・Facebookページ「しまなみサイクリングパラダイス」の運営

2 しまなみ地域イベント実施団体支援事業

- (1) しまなみ地域体験・観光プログラム作成研修会・交流会の開催
 - ・第1回：10月4日開催、15団体18人参加
 - ・第2回：12月6日開催、14団体18人参加
 - ・第3回：2月21日開催、11団体14人参加

3 瀬戸内しまなみ海道活性化実行委員会の開催

・構成：県、今治市、上島町、今治商工会議所、しまなみ商工会、本四高速(株)、四国地方整備局

4 事業費合計 3,000千円 (県1,500千円、今治市1,200千円、上島町300千円)

5. えひめさんさん物語フォローアップ事業費 1,500千円 (R2~4年度)

「えひめさんさん物語」を一過性に終わらせることなく、閉幕後も企業及び地域住民が継続して活動するための支援体制を整え事業を支援することにより、交流人口の拡大を図り、定住・移住を促進し、ものづくり産業の人材確保につなげた。

1 えひめさんさん物語フォローアップ協議会の運営

2 チャレンジプログラム支援事業

えひめさんさん物語で認定した100プログラムを対象に、継続実施する内容等について情報発信。

- ・新規ホームページ「えひめさんさん物語ネクスト・さんさん」にプログラムを掲載
- ・えひめさんさん物語SNSを継続活用（フェイスブック、ツイッター、Instagram）

3 オープンファクトリー支援事業

ものづくり産業の魅力を発信。

- ・ものづくり産業を通じて、地域の魅力を発信する映像の制作
- ・コロナ禍において、ものづくり産業の魅力を発信する新しい形のオンライン工場見学



4 石鎚山脈魅力発信事業

「石鎚山々(さんさん)ガール」のメンバーを募り、女性目線で体験した石鎚山脈の魅力を発信。

- ・メンバー(20名)による登山を実施し、SNS等で情報発信
- ・「えひめさんさん物語ネクスト・さんさん」において登山道情報やえひめさんさん物語山の物語の記録映像等を公開

5 事業費合計：6,000千円 (県1,500千円、新居浜市・西条市・四国中央市各1,500千円)

6. 東予東部ものづくり若年人材確保事業費 1,800千円 (R1~3年度)

東予東部地域内の優秀な技術力を持つ中小ものづくり企業の地域外での認知度の低さ、人材確保の難しさという課題に対応するため、東予東部地域一体で、ものづくり産業の人材確保対策に取り組み、地域の活性化を図った。

1 理系大学生等人材確保対策

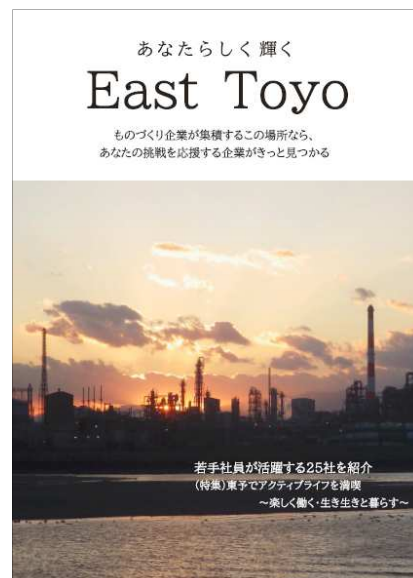
- (1) オンライン意見交換会の開催
- (2) ものづくり企業魅力発信能力アップセミナー
- (3) オンラインものづくり企業見学会
- (4) 企業紹介動画の作成、オンライン配信
- (5) オンラインものづくり企業出張講座
- (6) 東予東部ものづくり若年人材確保事業の報告書の作成・配布

2 中・南予高校生の就職促進

- (1) 高校生向け企業紹介パンフレットの作成・配布
- (2) 企業紹介動画の作成、オンライン配信
- (3) 中南予高校とのオンライン交流会

3 東予東部ものづくり若年人材確保対策協議会の運営

4 事業費合計 3,600千円 (県1,800千円、新居浜市・西条市・四国中央市各600千円)



7. やまじ王産地強化事業費 1,100千円（H30～R2年度）

「やまじ王」の生産性の向上や生産者の技術力アップ、新規生産者の確保育成等を図り、産地の維持拡大を目指すとともに、ブランド力の強化に取り組んだ。

1 やまじ王産地化対策検討会の開催 ※6/25、3/5開催

(1) 検討会の運営

2 省力生産技術の確立

労働時間短縮のためマルチ・機械化体系と贈答用中玉生産拡大のため実証圃を設置し技術の確立並びに普及を図った。

- (1) マルチ栽培の実証 ※実証圃2カ所設置
- (2) 贈答用中玉生産栽培の実証 ※実証圃3カ所設置
- (3) 機械化体系の実証



3 新規生産者の確保及び栽培面積拡大

新規生産者を対象に研修会やセミナー・栽培講習会を開催し、生産者の確保と面積拡大を図った。

- (1) 新規生産者研修会の開催
- (2) 実習研修圃場の設置（JAうま、JAファームうま）
- (3) 経営指標、栽培マニュアル、パンフレットによる周知
- (4) 栽培講習会、セミナーの実施

4 「やまじ王」のブランド化の推進

「やまじ王」の更なる有利販売のため、高品質やまのいもの贈答用の販売など販路拡大を図った。

新たな加工品開発及び積極的なPR活動によりブランド力の強化を図った。

- (1) 贈答用の販売促進活動
- (2) 新たな加工品開発

8. しまなみ産夏季レモン栽培体系確立事業費 750千円（R2～4年度）

しまなみ地域のレモン栽培は、面積、生産量とも県内第1位である。近年、安定価格で取引されているが、夏季レモンは、端境期であり供給が少ない。そこで、栽培体系を確立し、しまなみ産レモンのブランド力の向上と地域農業の活性化を図った。

1 レモン産地活性化検討会の開催

- (1) 活性化検討会の開催（年2回） ※6/26、3/4に開催

【構成員】生産者団体、JA、地元市町等

- (2) 情報収集の実施
 - 高知県の夏季レモンについて情報収集
 - ※9/14高知県香美市で事例調査(2名参加)
- (3) 夏季レモンの個人消費者評価の実施
 - ※アンケート12件回収

2 現地技術実証と栽培体系の確立

- (1) 実証圃（3施設）の設置による栽培技術の検討
 - 結果母枝確保、果実品質調査
 - ・夏季剪定
 - ・肥培管理 等
 - 夏季レモンの防除体系
- (2) 栽培講習会の開催（ゼロ予算）
 - 講習会で高品質生産へ向けた情報提供や栽培指導
 - ※6/23、7/22、3/1に講習会開催



9. 醸造用ぶどう生産力強化事業費 970千円（R2～4年度）

今治市大三島において、ワイン醸造施設の稼働等、醸造用ぶどうの産地化に向けた機運が高まる中、その生産力強化を図るため、就農希望移住者等を中心に栽培面積の拡大を進めるとともに、栽培技術の確立等に取り組んだ。

1 醸造用ぶどう生産推進体制の整備

- (1) 醸造用ぶどう推進協議会（仮称）の設置・開催 ※6/2、3/2開催
【構成】NPOしまなみアイランド・スピリット、生産者、(株)大三島みんなのワイナリー、JA、市、県
- (2) 先進地視察研修

2 地域に適した醸造用ぶどう生産技術の確立

- (1) 栽培技術確立に向けた検討会 ※11/25開催
【構成】生産者、(株)大三島みんなのワイナリー、JA、県
- (2) 栽培技術の実証とワインの品質評価
・施肥管理
・枝梢管理等の検討 ※実証圃4箇所設置
- (3) 栽培技術力の向上支援
技術研修会の開催
※6/5、8/25、1/21開催



10. 新花材ピットスポラム等生産力強化事業費 1,454千円（R1～3年度）

新花材ピットスポラム等花木の新規栽培者の確保・育成や作付推進を図った。また、生産から販売戦略までのマネジメントを関係機関が一体となって進行管理することにより、東予一円に広がる花木産地のブランド化の推進に取り組んだ。

1 産地化推進体制

- (1) 東予地域花木生産対策会議の開催（構成：6JA、5市町、農水研、東予地方局）
※7/2、3/3開催

2 優良苗供給体制確立

- (1) 挿木用の母樹園設置（有望品種の導入）※4品種導入
- (2) 育苗技術研修会 ※9/18開催

3 新規栽培者の確保

- (1) 広報誌による呼びかけや個別面談の実施
- (2) 栽培塾の開催 ※13回開催

4 栽培技術の高度化（収益性の向上）

- (1) 栽培マニュアル・経営指標の作成
- (2) 着果安定・発根促進・鮮度保持技術の検討
- (3) 栽培実証圃の設置 ※3箇所設置

5 市場調査・販売促進イベント・ブランド化

- (1) 大都市圏の需要把握・売り込み
- (2) 華道家・花屋対象の利用拡大研修
- (3) 市場やイベントでの販売促進活動
※プロモーション用のぼり旗の作成



11. しまなみ産オリーブ特産化促進事業費 1,500千円（R1～3年度）

オリーブは、その加工品が健康志向から市場拡大傾向にある。そこで、降水量が少なく県内でもっともオリーブ栽培に適しているしまなみ地域において、関係機関と連携して、栽培技術向上や加工品開発などを行い、生産を拡大させて県内初のオリーブ産地を育成し、地域農業の活性化に取り組んだ。

1 推進体制の整備

- (1) オリーブ特産化推進検討会の開催 ※6/18、10/19、3/11開催
構成：生産者、JA、今治市、県、その他

2 オリーブの栽培促進

- (1) 栽培技術の実証 主要4品種等の栽培 施肥設計
〔実証項目〕①病害の防除
(2) 指導マニュアルの検討
〔掲載項目〕品種、土壌、肥料、かん水、病虫害防除、収穫、せん定、生産費など
(3) 生産拡大及び技術力の向上（栽培講習会） ※1/28、2/25開催
〔内容〕推進資料を作成し新規栽培者を確保、既栽培者の技術レベル向上促進

3 オリーブの加工品開発

- (1) オリーブオイルの品質・機能性成分調査 ※1/27開催
(2) 新しい加工品の開発

4 オリーブ加工品の消費拡大推進

- 〔内容〕レストラン等の実需者を対象とした加工品の評価等の情報収集
※11/8、11/21～22実施



12. 木材流通改革による担い手確保促進事業費 541千円（H30～R2年度）

東予地域には、県内屈指の大規模製材工場等が集積し、木材需要の拡大が見込まれる一方、原木供給は低迷し、原木生産量の拡大と担い手の確保が課題となっている。そこで、新たな木材流通体制を構築し、事業量の確保と、所得向上を図り、「原木生産量の拡大」及び「担い手の確保」に取り組んだ。

1 東予流域木材流通改革検討会議の開催

- (1) 過去2年間の検討会議での検討結果、実証事業での成果等の総括
(2) 東予地域サプライチェーンマネジメントの構築、木材流通の方向性の提案
(3) ウッドヤード稼働に伴い想定される諸課題の改善策検討、PDCAサイクルの実践

2 森林所有者等への普及・PR

検討会議等で示された新たな木材流通の方向性について、写真やイラスト等で分かりやすく示したパンフレットを作成し、広く森林所有者や流通・加工事業者に対する理解・協力の促進を図った。

- (1) パンフレットの仕様
A3両面フルカラー印刷
(2) 印刷部数
3,000部
森林組合組合員（約2,800名）ほか流通・加工業者等関係機関に配布し、普及を図った。

